

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792510034		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホーム 西会津しょうぶ苑 おとめゆり		
所在地	福島県耶麻郡西会津町野沢字下小屋上乙3229番1		
自己評価作成日	平成30年10月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成30年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の要望に可能な限り応える事ができよう、日々職員同士で話し合いをしている。また認知症対応型の事業所として、利用者様の状態に合わせた対応が出来るように、勉強会やカンファレンスを行い、少しでも望む暮らしが送れるよう努めている。地域の行事や慰問等で近所の方等をお呼びし、交流する機会を定期的に作ることで、利用者様が地域の一員であり、地域の方と一緒に過ごせるよう支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員は、理念を基に、利用者が楽しく生活し、家族も安心し、楽しく働けることが出来、一人ひとりの力を引き出し、みんなが笑顔で暮らせるよう取り組んでいる。地域密着型サービスの意義と役割を理解し、町役場や町内の介護関連事業所の行事に参加し、地域の一員として活動し交流している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1ヶ月に1回、職員会議内で理念の共有に努めている。	何に向かってケアをするのか、目指すものは何か、統一されたものが理念と考え、コミュニケーションを大切に力を入れている。利用者や家族・職員、みんなが笑顔になれる場所で心が通じ合う、一歩踏み込んだ温かいケアができるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、外出支援等、積極的に活動している。	町との関わりを大切に、地域の一員として認めてもらえるようにしている。敬老会に参加し地域の方と交流している。他の事業所の行事に声をかけてもらい、参加し近隣の方や子供達と楽しい時間を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で参加していただいた地域の方に状況報告を通して認知症に対する理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の利用状況報告や行事の報告、事故報告等を行い、それに対するご意見を頂いている。内容については、サービス向上に役立っている。	管理者は、自分の声できちんと事業所としての考え方を伝え、参加者の意見や情報をもらうようにしている。充実した会議が行われて事業所を知ってもらえるよう、目で見てわかる広報紙を作成し働き掛けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月定期的に地域のサービス調整会議へ参加し、情報交換や共有を図っている。	町役場に出向いたり、電話をするなど、利用者の事について個別に知らせてもらっている。研修会の日程を知らせて貰い、行ける所には職員の意欲が高いので参加して貰うようにし、資質の向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束・虐待防止委員会を開催し、意識、周知、共有を図っている。また内部研修会へ随時参加している。	身体拘束はしないことを基本としている。定期的に再確認し、身体的・言葉の拘束はしない事を職員に意識付けている。ひとり歩きの方には、心の負担など個別に話を聞いて、一緒に行動し寄り添い、見守りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について話し合い、日々の業務の振り返りをしながら、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等へ参加し、制度について学ぶ機会を持っている。成年後見制度を利用されている利用者様もあり、月々の身体的・金銭的報告を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に十分な説明を行い、とそれに対する同意を頂いている。契約後も苦情に対する窓口を設けていることを利用者様やご家族様に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ごとに担当職員がおり、利用者様やご家族様とコミュニケーションを図る中で要望やご意見を伺うようにしている。	広報紙で行事の様子や、その人の暮らしぶりを写真にして送っている。面会に来てもらった時に、声かけし日々の状況を伝え、要望を聞いている。歩く機会を多くしてほしい、との要望に介護計画に歩行訓練や運動を取り入れ応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議の他、常に全職員と相談しながら物事を決定するよう努めている。	職員の意見や要望・提案は、みんなで決めることを基本にし、会議に参加できない職員には、後で意見を聞いている。ケアの方向性を大切に、全員に情報が伝わるようにしている。資格取得や研修参加の希望には、勤務体制を調整して応えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は可能な限り現場に足を運び全職員の意見や要望の吸い上げに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内外の研修へ参加する機会を設け、個々の能力アップに繋がるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役場、包括主催の会議や研修会へ定期的に参加し、交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様との面談の際には、時間や場所に配慮し、笑顔で向き合いながら傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との面談の際には、時間や場所に配慮しながら気持ちに寄り添い傾聴に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、面談時に利用者様やご家族様にとって必要と思われるサービスについて情報を整えたうえで提案し、同意を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に役割を持っていただき、できるだけ一緒にできることを提供、提案している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回利用者様の報告を行っている。また、面会に足を運んでいただいた際は、近況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のイベントや行事、日常の外出支援にて馴染みの方々や場所に触れ合うことができるよう努めている。	本人がこれまで大切にしていた人と関わる機会を多くできるように、近くの店や昔からのなじみの店に買い物に行くなど、外に出る機会を多くしている。併設する事業所の利用者同士や定期受診で顔見知りになるなど、なじみの関係が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や人間性を理解したうえで、間に入りながらコミュニケーションが図れるように声掛け、説明等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後においても、いつでも気軽に足を運んでほしい旨を伝えている。必要な情報提供は継続的に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションを主に情報収集に努め、意向などを把握出来るよう努めている。	入居前に利用していた介護サービスの担当者から話を聞くなど、その人の生活歴や性格を知るようにしている。毎日の関わりの中で本人の思いを汲み取るようにし、困難な方には家族から話を聞いたり、表情や行動から読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や入所後の面会の際、家族様に生活歴などを伺ったりし、日ごろのコミュニケーションの中でも情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	接する機会をできるだけ増やし、一人一人にあった生活リズムや変化を申し送りノートなどに記入したり、朝礼の時間を使い確認し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、利用者様や家族様より意見や要望を頂き、その情報も介護計画に反映させている。	本人・家族や担当職員の報告を基に、一日一日がその人にとって充実した毎日であるよう個別の具体的な計画作りをしている。体調や認知度の変化に合わせ、家族や医師の意見を聞き、その都度見直しをするようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日ごろの関わりの中で気づいたことなどを申し送りノートに記入したり、朝礼で口頭でも共有している。計画の見直しが必要な時は職員会議の時間に検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関わる時間を作ることで、望んでいることを、汲み取り 利用者様がその人らしく生活できる環境を作っていくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加できるよう支援し、楽しく生活できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様本人やご家族の希望を伺いながら馴染みのかかりつけ医に定期的に通えるよう支援している。	受診は家族に対応してもらっているが、職員が代行することもある。かかりつけ医が協力医療機関となっており、他の医療が必要な時は連携を取り適切な治療が受けられるようにしている。受診結果は家族に伝え、共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間に一度、ホームに来る訪問看護の看護師に日ごろの様子や相談したいことを伝えている。変わった事や気になることがあれば連絡し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的の様子を見に行き、声をかけるよう努めている。また、病院の担当者とも情報交換を行い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族と十分に話し合い、事業所の方針を文書化し説明と同意を得ている。また、医療機関とも連携に努めている。	重度化や終末期の対応について、職員は医師が作成したマニュアルに沿って細かいところまで知り、状態に合わせた適切な対応ができるようにしている。救急隊にも早めに状況を伝えている。看取りまでのケアの対応など貴重な体験ができ、自信につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルや職員の連絡網を作り備えている。内部・外部研修に積極的に参加し伝達もを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1ヶ月に一度避難訓練を行い、利用者様にも参加していただいている。季節や状況に合わせた避難訓練も行っている。	消防署の協力を経て、避難訓練を行っている。初期消火や避難の仕方についてアドバイスを貰っている。職員は、災害時の避難については、優先順序を把握している。非常用食料等を備蓄し、有効期限を確認し交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳や人格を尊重した対応を職員全員で行えるようお互いに注意し合っている。	日々の関わりの中で、親しき仲にも礼儀ありを念頭に周りの人がどう思うかを考え、人格を尊重し言葉を工夫し対応をしている。利用者同士でプライバシーや人格を損ねる場合は、職員は状況を把握し間に入り話を聞き、個別に対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは利用者様が話しやすい環境を作っていくことで、自己決定へ繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が望むことを優先できるように努めている。時間の調整は本人様と相談し決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅からお気に入りの物を持ってきていただき、おしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様には出来る範囲で準備、片付け等を行って頂いている。誕生会では、利用者様の要望を聞きながら、好みのメニューを提供している。	利用者と職員が関わる時間を多く持てるよう、メニューは外部に発注委託している。間食される方、偏食の方には他の利用者の目につかないよう配慮している。そばを食べに行くなど、外食の機会を通して、食事を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し把握している。また、体調の変化にあわせてメニューを変更する等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方には声掛けを行い、一人では困難な方は必要なところを介助し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録をとらせていただき、排泄の間隔を把握することで、声掛けを行い失敗を減らせるようにしている。	一人ひとりの状況を把握し、自立に向けて取り組むことを基本にしている。オムツやパットの方が、トイレで排泄できるよう、現状維持に満足せず声掛けし誘導している。退院時はオムツだった方に職員が働きかけ、トイレで排泄出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックを行い、水分が足りないと思われる方には小分けにして提供し摂取を促している。また、できるだけ運動する機会を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を聞き、希望の時間に添って入浴して頂いている。	一人ひとりこれまでの入浴習慣を継続できるようにしている。嫌がる人には、体重測定や着替えの機会を利用したり、言葉かけを工夫して入浴してもらえるようにしている。羞恥心に配慮し職員を変えたりしている。好みの入浴剤を活用し、入浴して貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が安心して休んでいただけるよう、不安があれば声かけ等に努めている。また、入眠・安眠しやすい環境もその方に合わせてつくっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎受診時、薬の変更がないか職員全体で把握できるよう受診記録をつくり把握している。変化があった場合は、内容を確認し理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴なども参考にしながらレクリエーションや作業を提供し、申し送りノートに記入していくことで職員全体でご本人の楽しみや役割を共有している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間以外は可能な限り、希望にそった苑外活動を行っている。	外に出る機会を多くして、外の空気を吸ったり、日光浴をしたり、その人らしく過ごせるようにしている。職員と一緒に出かけ、自分の買い物してもらっている。家にお供えや線香をあげに帰りたいとの要望には、可能な限り応えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より現金を預かり、金庫にて保管し欲しいものがあれば、そのお金で購入している。一か月に一度預り金明細をご家族に送っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも連絡が取れることを日ごろからお話している。要望があれば、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じれる空間づくりを環境委員会を中心にやっている。職員会議でも意見を出し合い、心地よい環境づくりを目指している。	行事の写真や西会津ふるさと祭りに出品した作品が飾られている。それぞれが思い思いの場所で、その人らしく過ごせるよう配慮している。感染症予防に、空気の入替えをしたり、温度や湿度の調整をし、手洗いうがいを励行して貰っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファ・カウンター席があり、その時の気分で好きな場所で過ごしていただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	居室には使い慣れた家具や希望の物を持ち込むことで安心して生活できる環境を作っている。	可能な限り、なじみの物を持ち込んでもらい、その人らしく暮らせる居室作りを支援している。家具やベッドの配置は本人の希望通りにしている。職員のアイデアで、入り口に花の写真を飾り、居室を間違わないようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、廊下やトイレの必要などころに手すりを設置し安全な環境を提供している。		